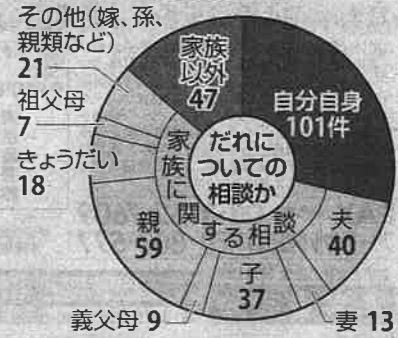
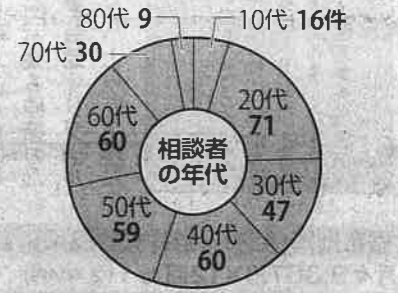


### 掲載分の内訳

（2021年12月から22年11月まで）



## 相談内容最多は「家族」

「人生案内」では、この1年間（2021年12月～22年11月）に計352件の相談を掲載した。年代別では、20～60代の相談が中心で、20代が71件と最も多かった。10代では、女子中学生の相談も2件掲載した。性別では、女性からの相談（261件）が多くを占め、男性は90件、Xジェンダー（性別が男女の区別に当てはまらない）が11件と、08年になる。

「人生案内」は、1914年に「身の上相談」というタイトルで始まった。49年から現行のタイトルに。今年で108年になる。

これらの相談は、読売新聞オンライン（<https://www.yomiuri.co.jp/jinsei/>）でも読むことができます。



### 家族

外に開かれなくなって、縁を切れないという相談で、相談者が「腐っても父」と言い、名言だと思った。久田 指示しないと何もしてくれない「指示待ち夫」に憤る妻の相談が引掛かった。指示を聞かないとか、指してもできないとか、まるで会社のよう。かつて家庭は愛情を原理にした共同体と習ったが、今はそこに利害とか、違った論理が入り込んでいる

### 「腐っても父」は名言



山田昌弘さん  
（中央大学教授）

### きょうだいが他人化



樋口恵子さん（評論家）  
※オンラインで参加

\*座談会の出席者は写真撮影時以外はマスクを着用して話しました。

### 型だ。品行の悪い父親との縁を切れないという相談で、相談者が「腐っても父」と言い、名言だと思った。

久田 指示しないと何もしてくれない「指示待ち夫」に憤る妻の相談が引掛かった。指示を聞かないとか、指してもできないとか、まるで会社のよう。かつて家庭は愛情を原理にした共同体と習ったが、今はそこに利害とか、違った論理が入り込んでいる

### 大日向 会話のない両親の仲を取り持とうとする中学生や、けんかばかりしている両親のようにほかにないという専門学校の相談に答えた。コロナ禍で社会が閉ざされていくせいだ、親や家族に目が行きがちで、評価がとて厳しくなり、衝突も増えているように感じた。

海原 親のけんかを見ていて大人げないと嘆く女子学生の相談が典型だが、ちょっと親に対する幻想が大きすぎるのかもしれない。親なんて特別素晴らしいものではない。一人の悩み多き男と女が一緒にいるだけと思うと、そんなものかという気にもなる。そういう気の持ちようも大事だ。

### 変化

10年、20年という長期的な視点から感じる変化は。久田 家族の姿は変わった。夫も妻もひとり好きにことをして暮らしたいと考えている。幸せの追求は家族単位から個人単位になり、それを許容する社会に向かっていくように思う。

### 心掛け

どのようないい回答か。心掛けて回答するのは、増田 相談を読んで、まず、その内容を認めて、その上で自分の意見を言うようにしている。いい 相談者は実はすでに回答を分かっている。押しを求めている。不安な気持ちがある。ちょっと混乱して、立ち位置が分からなくな

### 働き方

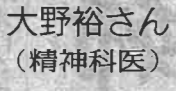
ハラスメントや障害者雇用、女性活躍など、働き方に関する相談や悩みも多く寄せられた。佐貫 パワハラを始めとするハラスメント関連の相談が相変わらず目につく。いけないことという意識はかなり浸透してきたが、本音では悪いと思っていない人も結構いるのが実情だ。目撃をしたが、黙っていいものかという相談もあった。働き方の意識改革はまだ途上にあるんだなと感じた。

### その他

ほか印象に残った相談は。出久根 70代後半の父親が車の運転をやめてくれないという相談があった。高齢ドライバーの事故はたびたび報道されており、気になった。今回の相談では、やめさせようとする人がいるわけだが、これからは同居の人が増え、やめると言う人もいなくなる。その時どうなるのが心配だ。藤原 インターネットを通じて親しくなった外国人から送金を迫られる「国際ロマンス詐欺」の相談は、とても現代的だと思った。出会いから破局まで、すべてがSNS上で行われていて、リアルな付き合いが全くないうちに、相手を「彼」と呼ぶ。相談者は自分を被害者と思っていない。SNS上の言葉は吟味しづらく、うそを見抜くことが難しいからだ。表に出ていない被害は多いのではないかと感じる。

### 介護

介護についても高齢化社会が進む中ますますシビアになる。久田 介護は変わってきた。夫も妻もひとり好きにことをして暮らしたいと考えている。幸せの追求は家族単位から個人単位になり、それを許容する社会に向かっていくように思う。



大野裕さん  
（精神科医）

### 夫婦の絆 感じた

10月から回答者を務める中で、とくに印象に残ったのは、妻ががんの宣告を受けた50代男性の質問でした。その人が、事業を縮小してまで、妻との時間を大切にされていることに、夫婦の絆と人の心

のあたたかさを感じました。この方に限らず、いただいた質問文を読むと、皆さんが悩みながらも様々な工夫して生活されていることがわかります。コロナ禍では孤立することが多いので、ご自分なりに工夫されている方が増えているのかもしれない。相談者や読者の方々には、そうした工夫を大切にして、人生に役立てていただきたいと思います。

「人生案内」の公式ツイッター (@jinsei\_anna) については、紙面に掲載する相談と回答者名をいち早くつぶやいています。相談を簡単に書き込める投稿フォームのURLも載せています。